

## ○公立選手権大会結果

7月27日（土）に行われました公立選手権予選の結果を報告します。

本大会は、3年生の最後の大会でもあり、  
悲願の本大会出場をかけた予選大会でした。

3校でのリーグで行われ、1位ならば本大会出場が決定、  
2位ならば2次予選へ進出することになります。

### ◎第1試合 VS 武蔵丘

	1	2	3	4	5	計
武蔵丘	0	2	1	1	1	5
山崎	0	0	0	5	0	5

第1試合の相手校は、毎年安定して上位大会に進出している武蔵丘高校。  
選手の間でも不安が広がっていた。

試合は、初回。

1回表の満塁のピンチを切り抜けると、1回裏先頭が痛烈なヒットで出塁。

さらに初球で盗塁を決め、チャンスを作る。

その回は無得点に終わったものの、初回の表裏を終え、勝利へ希望を感じさせる展開となった。

2回以降、毎度走者を許しピンチを迎えるものの、左翼手の2度の好捕や  
リリーフした投手陣の好投などにより、少ない失点で切り抜ける。

試合前から「1回の失点を2点で抑えられれば、必ず点をとるチャンスが訪れる」という作戦通り、  
毎回を2点以内で抑えると、ついに4回裏。

3年生の連続安打を皮切りに最大のチャンスを作る。

ここで9番の2年生が2ストライクからしぶとく遊撃に内野安打を放ちついに1点を返す。

さらに相手の守備が乱れる間に代走で出ていた2年生の好走塁により間一髪本塁を陥れ、2点差に迫る。

続く打者はここまで2安打と完璧に先発投手を捉えていた2年生。

ここで相手校は投手を2番手にスイッチする。

2ストライクと追い込まれながら、振り抜いた打球は痛烈一閃。

左翼ポール際に飛び込む逆転3ランホームラン。

一挙、5-4と試合をひっくり返し、応援にきていた沢山の観客も歓声を上げる。

その後、5回表に1点を返されたものの続くピンチを切り抜けると、5回裏、2死3塁のチャンスを作る。

70分の時間制のため最終回となっておりサヨナラのチャンスとなるが、ここは相手投手が踏ん張り、5-5の引き分けで1試合目を終えた。

終盤で0-4という苦しい展開ながら、全員の踏ん張りで一時逆転、さらに引き分けで終える等、これまでの練習の成果が存分に発揮された好ゲームとなった。

#### ◎第2試合 VS 日野台

	1	2	3	4	計
山崎	0	0	2	0	2
日野台	2	4	2	4 x	1 2

2試合目は日野台高校。

前週に練習試合で好ゲームができた相手だが、部員も多く強豪チームである。

この試合に勝利すれば本大会進出が決まる大事なゲーム。

しかし、試合は初回表先頭が出塁するものの相手捕手の好送球で盗塁刺。

一方日野台高校の小技を中心とした攻撃を前に守備の乱れ等も絡み、序盤から6点のリードを許す。

3回表、2,3塁から2番に入った2年生の2点タイムリーでついに2点を返すが、

その後もコンスタントに得点を重ねられる。

終盤勝負に持ち込めればと思ったものの、4回裏一挙4点を挙げられてしまい、10点差がつき、規定により4回コールドで敗戦となった。

その後、大会規定により、武蔵丘高校と本校が1敗1分で並んだため、抽選により2次予選への進出チームが決まることに。

主将による抽選の結果、先に引いた相手校のくじが○。

これにより、本校は敗退となった。

総括して、本大会に進出すれば約10年ぶりとなる本校だったが、惜しくもそれはかなわなかった。

しかし、参加校の中で最も楽しく最後までできたのではないかと思う。

3年は全員が初心者から始め、途中で投げ出すことなく最後まで頑張った。

投手2人も苦しい中努力を続け、最後は安心して任せられるようになった。

その成果により、最後の大会でこのような好ゲームができたことは一勝の思い出にしてほしい。

最後はくじ引きにより敗退が決まってしまったが、それは3年間の中のほんの一部。

「どのくじを引くか」以上に沢山の選択が3年間にあったと思います。

途中で部活を辞めようか、と悩んだ人もいるかもしれません。

それでも続けて頑張ってきた選択が最後の大会につながりました。

途中からでしたがソフト部の顧問になれてよかったです。

暑い中応援に来てくださった保護者の皆様、先生方、生徒の皆さん、関係者の皆さん。

ありがとうございました。

(文責：顧問・中村)